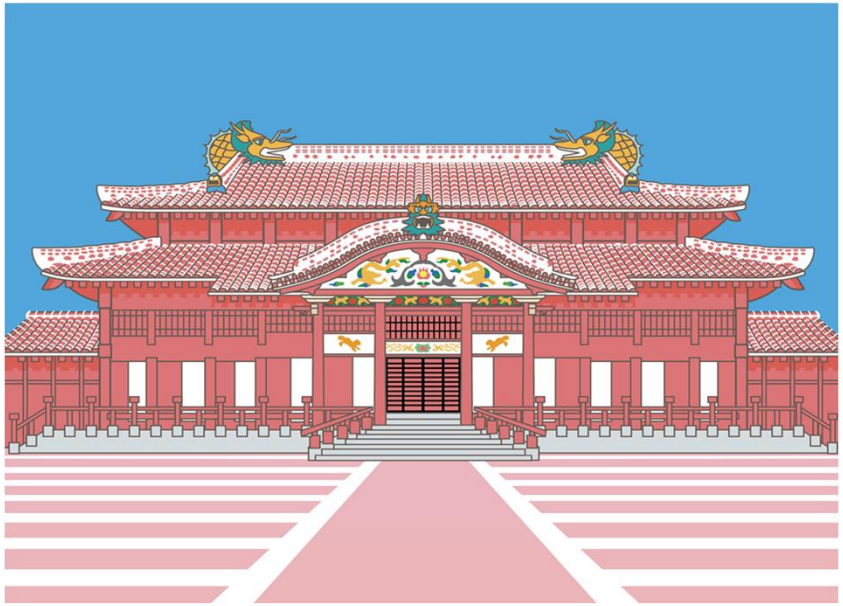
2025年度インターゼミ
サービスエンターテインメント班中間発表25/8/25

# 多角的に捉えた地域活性化～沖縄の過去・現在・未来



＜メンバー＞

・大学院生：正岡涼

・学部生　：井上慶太郎、吉川侑希、吉川莉里、笹岡宗史、芦名瑞紀、
白木俊輔、西田慧、大村優翔、久保裕睦、小林沙紀、真島大翔

・指導教員：バートル、大竹英理子、宮本純至

# 発表内容

1.沖縄の歴史
2.研究背景と問題意識
3.研究の方向性
4.進捗状況
5.ヒアリング
6.フィールドワーク
7.論文の構成
8.今後の研究計画

1.沖縄の歴史

2.研究背景とと問題意識
3.研究の方向性
4.進捗状況
5.ヒアリング
6.フィールドワーク
7.論文の構成
8.今後の研究計画

# 1-1 沖縄県の成立からみる経済構造

## ① 琉球王国の歴史

●1429年に成立、1879年に日本に編入（450年間続いた王国）

●約270年にわたって「日中両属」の外交関係を維持

●日本と中国の中継貿易・文化交流のハブ

## ②戦後沖縄と経済構造

●1945年強制的な土地接収で基地が拡大される

●1972年に本土復帰後基地負担が沖縄に集中

●米軍基地が集中（全国の74%が沖縄）

●基地・公共事業・観光への依存＝「3K経済」

●本土の総論賛成、各論反対（沖縄の基地負担の軽減は賛成だが、自地域は拒否）という国民意識

が県外移設を阻害

## ②経済状況

●最低賃金：全国ワースト2位

●若者の県外就職率：高卒43.9%、大卒97%

●子どもの貧困率：29.9%

●若年失業率：4.4%

## 1-2 沖縄米軍基地が集中する「構造」

1. 1945年　沖縄戦後、米軍は沖縄を戦略的要衝と位置づけ、強制的な土地接収で基地を拡大。
2. 1950年代「本土」での反基地運動激化を受け、「本土の摩擦回避」（政治的理由）のため、米海兵隊などが沖縄へ移駐。
3. 1972年　日本復帰後も基地負担は沖縄に集中。
4. ~現在　「軍事的には沖縄でなくても良いが政治的に沖縄が最適」という実態。「本土」の「総論賛成、各論反対」（沖縄の負担軽減は賛成だが、自地域は拒否）という国民意識が県外移設を阻害。

1.沖縄の歴史

# 2.研究背景と問題意識

3.研究の方向性
4.進捗状況
5.ヒアリング
6.フィールドワーク
7.論文の構成
8.今後の研究計画

## 2−1. 研究の背景

観光産業を基盤として
成り立っている沖縄経済。

しかし、
必ずしも**経済的に豊かであるとは言えない、、**

**長期的に持続可能な「自立・自律型経済」**の実現に向け、

新たな方向性・施策を模索する。

⇩

日本や世界の平和構築と未来志向の発展にも寄与するのではないか。

## 2−2. 問題意識から考える研究課題

| 問題意識 | 課題 |
|---|---|
| 観光地として衰退期に移る懸念 | オーバーツーリズムによる価値の毀損、<br>観光人材不足でのサービス低下<br>観光パッケージのマンネリ化（再訪率低下） |
| ハブ機能の弱さ | 地理的要因（離島性）<br>小規模分散市場による非効率、港湾や空港の処理能力の限界<br>人材・技術の不足 |
| 産業構造の問題 | 観光依存度の高さと脆弱性（自然災害、パンデミック）<br>域内経済循環が出来ていない（20%前後と最低水準）<br>一次産業の高コスト構造（土地制約による高コスト）<br>物流コストの高さによる二次産業の低成長 |

1.沖縄の歴史

2.研究背景と問題意識

**3.研究の方向性**

4.進捗状況

5.ヒアリング

6.フィールドワーク

7.論文の構成

8.今後の研究計画

## 3.研究の方向性

目的：沖縄を長期的に持続可能な経済体制にする

### 観光業の課題

・ジャングリアをケースとした観光拠点の可能性

・共同売店へのヒアリングによる発地主義観光の可能性

### ハブ機能の弱さの課題

・物流拠点により物流業の課題は解決されるのか。
・チェジュ平和フォーラム、ポリネシア文化センター等成功事例を沖縄で再現することは可能か？

### 産業構造の課題

・六次産業化の可能性

**示唆だし・提言**

1.沖縄の歴史
2.研究背景と問題意識
3.研究の方向性
**4.進捗状況**
5.ヒアリング
6.フィールドワーク
7.論文の構成
8.今後の研究計画

# 4-1 グローバル発信拠点の可能性（済州平和フォーラムを事例として）

・済州平和フォーラムは、アジア太平洋地域の持続可能な平和と繁栄を目的として開催開始から2025年に20周年を迎え、済州島だけではなく韓国の知名度の向上と地域の活性化に大きな相乗効果をもたらしている。
・沖縄県は、中国、東南アジアなど近い距離に位置していることに加え、済州島同様、歴史的に海上交通の要衝であった。毎年、国内外から多くの観光客が訪れている。

▼

沖縄では、済州フォーラムと同様またはそれ以上の機能をもった国際交流や協力を促す情報発信の拠点になり得るのではないかと考えられる

| | 沖縄県 | 済州特別自治道 |
|---|---|---|
| 人口 | １４６万人 | ７０万人 |
| 面積 | ２,２８１㎢ | １,８４５㎢ |
| 歴史 | 琉球王国、日中両属、海上交通の要衝、沖縄戦（1945年） | 耽羅王国、朝貢体制、海上交通の要衝、４・３事件（1948年） |

# 4-1 沖縄県のグローバル発信基地に関する構想

**・国連機関沖縄誘致推進センター　➡解散**
→「国連アジア・太平洋本部」の新設・沖縄設致の実現、沖縄をアジア太平洋地域の「平和のフォートレス」へ・国際平和創造フォーラムを２０２３年開催

**・アジア太平洋文化協働センター(ＡＰＭＣ)➡活動中**
→国立の教育研究機関として沖縄に設置することを目指す団体。
日本とアジア太平洋諸国との協働による平和創造の拠点とし、国際的な人材育成を推進することを目的としている。

**・沖縄県「沖縄県地域外交基本方針」**
→地域外交の取組の考え方や方向性を示し「21 世紀の万国津梁」を目指す。

**・沖縄科学技術大学院大学（OIST）**
世界50ヵ国以上から人材が集まる国際的な学術交流の拠点（外国人教員60%、留学生80%）。沖縄の技術移転と産業革新を牽引する知的クラスターの形成を図る。

# 4-2 沖縄国際物流ハブ　ー現状・課題・可能性ー

## ①現状

・東アジア主要都市へのアクセス良好
(那覇空港24時間運用)
・越境EC、特産品輸入拡大
(490社進出、雇用約3万人)

## ②課題

・観光基地依存からの脱却
・航空、海運ネットワーク、IT基盤の強化
→コストが高い
→湾岸、空港、ITの連携が不十分であり、
サプライチェーン効率化が課題
・国内外での認知度不足
→国内産品の海外認知度が低い
・土地、倉庫不足
→県内でサプライチェーンが完結できず、
仕入れ、物流コストが高い

## ③可能性

・高付加価値輸送の拠点化
(生鮮品、緊急パーツなど)
・他県特産品との連携で商品価値向上
・グローバルサプライチェーンの中心として成長

## ④沖縄ならではの戦略アイデア

・沖縄県限定農産物で勝負
→高糖度パッションフルーツ、ドラゴンフルーツ、沖縄ハーブなど
・環境保全と連動
→セキド流出ゼロ農法、サンゴ保全認証でサステナブルブランド化、観光とコラボして農業体験ツアー
・ハイブリット加工品で市場価値向上
→日本×沖縄、沖縄×海外　ex.抹茶×シークワーサ
土地が少なくても高付加価値製造可能

# 4-3 非営利循環型文化体験施設の可能性(ポリネシア文化センターモデル)

| | | |
|---|---|---|
| 経済的意義 | | |
| 来場者数 | 約100万人/年 | |
| 売上高 | 約5,800万ドル（約60～80億円規模） | 非営利の立場から施設運営費や教育支援費に再投資 |
| 従業員 | 約1,300人 | 70%（およそ900人前後）はBYU–Hawaiiの学生 |
| ・大学および学生に提供した経済的支援総額は1億7,800万ドル（約200億円）以上 | | |
| →周辺地域のみならず国際的な人材育成にも貢献する独自の経済モデル。 | | |
| ・旅行動機を創出し観光流動を分散。（ワイキキから車で1時間以上離れている辺鄙な土地での成功事例。） | | |
| | | |
| 文化的意義 | | |
| ポリネシア文化への理解と関心 | 伝統工芸体験、タロイモなどの伝統食試食、フラやハカ等の踊り鑑賞といった「参加型の文化体験」 | |

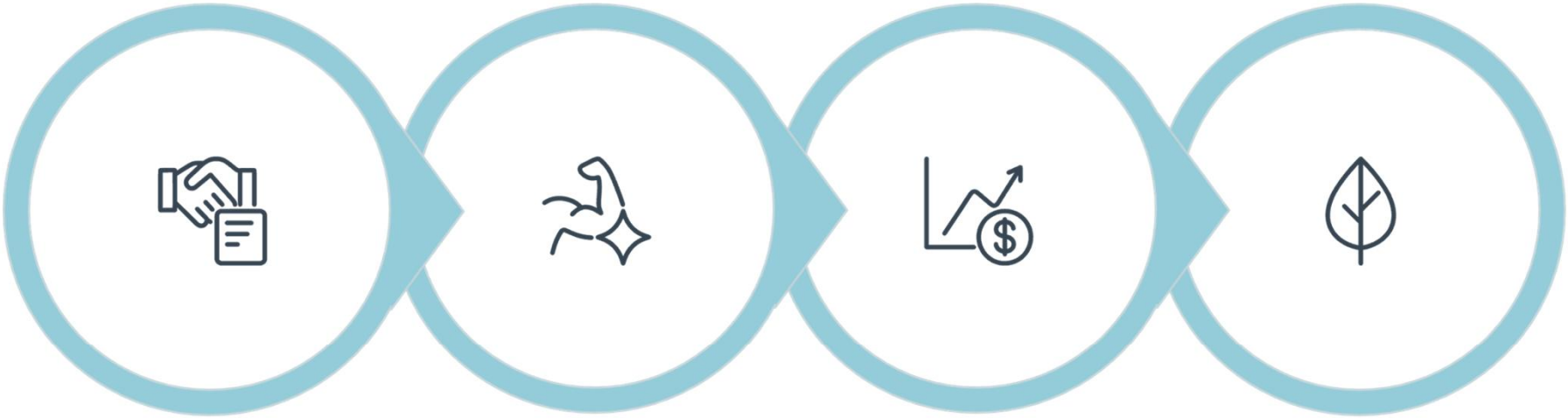
# 4-3 ポリネシア文化センターモデルの沖縄での可能性

| | |
|---|---|
| 経済的<br>波及効果 | 年数百億円規模の直接消費増加につながる可能性 |
| 雇用創出<br>効果 | PCC規模であれば1,000人以上の直接雇用が発生<br>学生雇用により、観光・文化分野の人材育成の課題解決 |
| 一極集中<br>緩和 | 観光客が訪れにくい北部エリアへの送客が可能<br>シーズンオフ時期の集客により、新たな観光ピークや需要を創出 |

# 4-4 ポリネシア文化センターモデル実現の条件とリスク

| | |
|---|---|
| 座組みの構築 | 政府・自治体の観光振興策による補助or民間企業コンソーシアムの出資 or 教育機関との連携スキームなどを組み合わせ |
| 文化の尊重・地域巻き込み | 文化の尊重と地域巻き込みにより、文化的真正性を確保し、地域に根差した誇りある施設にする必要性あり。✖「文化のディズニー化」 |
| 運営面 | 季節や外部要因による来客変動への備え |

# 4-5 六次産業化による経済振興の可能性~域内経済循環の引き上げを目指し~



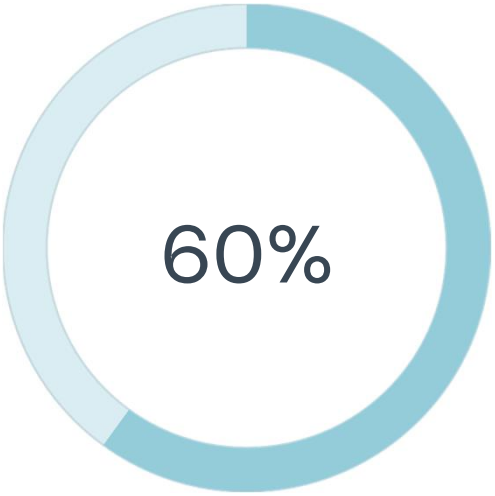
| 製品開発パートナーとのマッチング強化 | 加工人材育成 | マーケティング人材育成 | 持続可能ブランド |
|---|---|---|---|

大学
産業技術センター

工業技術センター

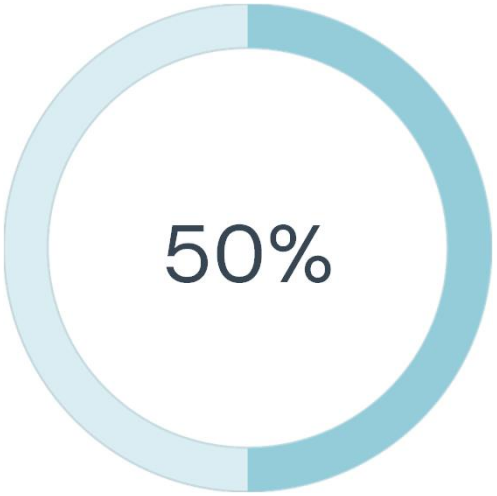
稼ぐ県産品支援事業
等

# 4-5 六次産業化による経済振興の可能性　~現状のボトルネックは？~



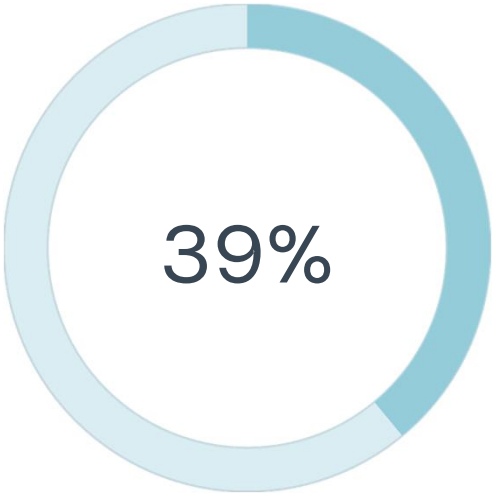

**小規模経営**

年間売上1,000万円未満の事業者が約6割




**収益性の低さ**

経常赤字計上が約半数




**技術課題**

加工技術の習得が最も多い課題

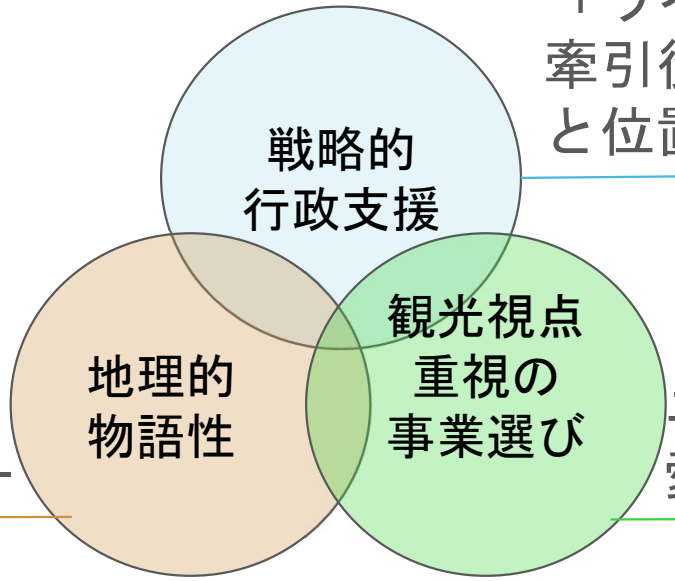
**自社分析理由**

- 「原料仕入れ費や光熱費など加工経費の増加」
- 「コストに見合う販売価格になっていない」
- 「販売先が安定していない」等

# 4-5 六次産業化による経済振興の成功事例　~余市ワイン~

**ワインを核に農業と観光を融合**

「ワイン産業を地域経済自立の
牽引役（6次産業の旗手）」
と位置づけた




「海と山に囲まれた余市」
という独自の地理的ストーリー

ニッカウヰスキーとの相乗効果
愛好家を呼び込むことに成功

1.沖縄の歴史
2.研究背景と問題意識
3.研究の方向性
4.進捗状況
**5.ヒアリング**
6.フィールドワーク
7.論文の構成
8.今後の研究計画

# 5-1斎藤勁 沖縄県政策参与ヒアリング

## 1. 沖縄の地域活性化

- **現状の課題**: 観光への偏りがあり、インフラや交通網も大きな課題となっている 。米軍基地の有効活用も検討されているが、横須賀とは状況が異なるため難しい点がある 。

**提案**:
**スポーツ**: 神奈川大学サッカー部のキャンプのように、スポーツを通じて現地の人々と交流し、過疎地の活性化につなげる 。
**経済**: 第一次産業を重視し、「ザル経済」と言われる現状から脱却するため、地元の人々が補助金など公的支援などに依存しない自立・自律型経済を目指す 。
**沖縄北部**: 北部地域を活性化させるため、様々な要素を取り入れる必要がある 。

## 2. 沖縄の歴史と文化

- **歴史の理解**: 若者たちが沖縄戦の歴史を知る義務がある 。沖縄は第二次世界大戦で「捨て駒」として使われ、多くの人が亡くなった過去がある 。
- **地元愛**: 沖縄出身の若者たちは地元愛に溢れており、地域の人々とのつながりが強い 。
- **沖縄の現状**: 平和の資料館やアメリカ基地が南部に集中しており、基地が日本の7割近くを占めるという現実がある 。

## 3. 今後の継続的な取り組み

- **交流の拡大**: 沖縄との交流を可能な限り継続的に広げ、「ヒト・モノ・カネ」を広げることが重要 。

## 5-2 杉崎聡紀氏（大阪国際大学講師）ヒアリング

・ジャングリアは観光の一部でしかない状態。（１日遊ぶ場所でしかない。）
→沖縄の他の観光地に誘客したい（ポジティブ側）
・予約制にして希少価値を高めるべきなのでは？
・レストランでは地元の食材を使っていて、地産地消に寄与している。
・雇用を生み出すことと感情面の釣り合いが今後の課題。
・効率の良いアトラクションが少ない。

→要点と今後につながる示唆を（北部経済圏）
・沖縄県内の企業や地元の方々が作っていたら成功の可能性が高い
・「地産地消」を推進するなどして本土と違う「沖縄らしさ」を如何に打ち出すか
・美ら海水族館×ジャングリアで日帰りから1泊2日へ、夏も冬も来訪者が増えて北部経済の活性化につなげる工夫が必要

1.沖縄の歴史
2.研究背景と問題意識
3.研究の方向性
4.進捗状況
5.ヒアリング
**6.フィールドワーク**
7.論文の構成
8.今後の研究計画

# 6.沖縄フィールドワーク（9月8日～10日）

| 沖縄フィールドワーク行程表（2025年9月8日～10日） | | | |
|---|---|---|---|
| 月日 | 午前 | 午後 | 備考 |
| 9月8日（月） | ・7:30（ANA463便）～10：05那覇到着<br>・10:30~11：30名護市内ホテル着（荷物預け）<br>・昼食：A&W名護店（ハンバーガー店） | ・13：20発13:50着　名桜大学学生会館4階教室（14:00～15：30）<br>※名桜大学国際学部国際観光産業学科 大谷健太郎教授レクチャー「沖縄観光の現状」<br>・①1班15：50発16：10着　今帰仁村城跡　②2班15：50発16：30着　嘉陽共同売店（16：30～17：30名護市嘉陽64　名護バスターミナル向け）<br>・①1班17：20発18：00ホテル着、②班タクシーにて18：00ホテル着 | ホテルピースアイランド名護泊 |
| 9月9日（火） | ・8：20発8：50着　ジャングリア<br>・9：00～10：30株式会社ジャパンエンターテイメントのセミナー<br>・10：30～11：30株式会社刀　佐藤大輔副社長ヒアリング（OB矢作真志さん） | ・ジャングリア体験<br>・18：00～19：30名護市から那覇市内ホテルへ移動 | ・南西観光ホテル泊<br>・アグリパーク駐車場終日利用 |
| 9月10日（水） | ・8：30発8：45着　琉銀総研（9:00～9：50）<br>・9：50発10：00着　琉球新報社（10：00～11：15）<br>・11：30発12：10着　ひめゆりの塔（12：10～14：30） | ・14：30発14：40着　沖縄県平和祈念資料館（14：40～16：30）<br>・16：30発17：00着　那覇空港<br>・18：55（ANA476便）～21：25羽田空港着 | ・昼食：ゆめゆりの塔近くの「レストランショップ琉球の館」<br>・羽田空港到着後解散 |

1.沖縄の歴史
2.研究背景と問題意識
3.研究の方向性
4.進捗状況
5.ヒアリング
6.フィールドワーク
**7.論文の構成**
8.今後の研究計画

# 7.論文構成

「多角的に捉えた地域活性化～沖縄の過去・現在・未来」(案) 沖縄経済，六次産業化，持続

第1章　はじめに

- 1-1. 研究の背景と目的　→現状や課題，成果に簡単に触れる~~沖縄の歴史、基地問題等~~
- 1-2. 問題意識と研究課題　→沖縄経済の~~観光地として~~継続的な成長を目指すには？
- 1-3. 先行研究の整理と本研究の位置づけ　→六次産業化

第2章　沖縄の現状

- 2-1. 沖縄の歴史
- 2-2. 沖縄の基地問題 (上に含める?)
- 2-3. 沖縄経済~~観光産業~~の統計と特性

第3章　沖縄経済~~観光の現状と~~課題

- ~~観光産業の統計と特性~~ (ここで述べることも可能)
- 3-1. 観光地や物流の抱える課題（オーバーツーリズム、環境・文化の劣化）
- 3-2. 持続可能性に向けた過去の取り組みの評価

第2章と3章は，分けない場合もありうる

第?章　先行研究のレビュー

本研究に直接関係する既存研究(沖縄経済，六次産業化)が多い場合，この章を追加する

第4章　理論的枠組みと分析手法

- 4-1. 持続可能な観光の国際的フレームワーク（例：UNWTO、GSTC）→客観事実
- 4-2. 本研究における分析視点と評価軸（経済・環境・社会・文化）→スタンスの表明
- 4-3. データ収集方法（面談、統計、事例分析など）

第5章　沖縄県における現地ヒアリング・実践事例の分析

- 5-1. インタビュー結果 →沖縄県参与や現地の自治体，企業，研究者へのインタビュー
- 5-2. 成功している地域事例（離島・市町村単位）
- 5-3. 住民・観光客・行政の関係性分析　→観光業者の発地型と地元主体の着地型観光の数値的比較分析　物流網の解決による六次産業化課題の解決

第6章　持続可能な観光地形成に向けた提言

- 6-1. 短期・中長期での政策提言→中長期視点で北部空港に触れる？
- 6-2. 地域間連携・住民参加のモデル　→共同売店や六次産業化
- 6-3. 教育・観光人材育成、情報発信などの展望→FC琉球の事例

第7章　結論

- 7-1. 研究の総括と成果
- 7-2. 今後の課題

1.沖縄の歴史
2.研究背景と問題意識
3.研究の方向性
4.進捗状況
5.ヒアリング
6.フィールドワーク
7.論文の構成
**8.今後の研究計画**

## 8.今後の研究計画

・文献調査（歴史、産業、若者、貧困、グローバル発信拠点化）

・フィールドワーク（２０２５年９月８日～10日、沖縄現地調査）

　現地では、沖縄県の企業やメディア、共同売店、ジャングリアなどの関係者へのヒアリング調査及び歴史的遺跡の見学などを行う。

・上記活動を踏まえ、分析・検証作業を行いながら論文としてまとめる

## 参考文献（ウェブサイトを含む）


１．寺島実郎「脳力のレッスン『国交なき交易』としての江戸期の日中関係ー七世紀オランダからの視界（その28）」『世界』2014年6月号、岩波書店

２．寺島実郎「脳力のレッスン　江戸期の琉球国と東アジア、そして沖縄の今ー七世紀オランダからの視界（その28）」『世界』2015年4月号、岩波書店

３．大江健三郎『沖縄ノート』、岩波書店、1970年

４．外間守善『沖縄の歴史と文化』、中公新書、1986年

５．桜澤誠『沖縄の現代史』、中公新書、2015年

６．『日本人として知っておきたい琉球・沖縄』、PHP新書、2022年

７．高良倉吉『沖縄問題—リアリズムの視点から』、中公新書、2017年

８．高良倉吉『琉球王国』、岩波書店、1993年

９．高橋哲哉『沖縄の米軍基地『県外移設』を考える』、集英社新書、2015年

１０．大久保潤・篠原章『沖縄の不都合な真実』、新潮新書、2015年

１１．ヨーゼフ・クライナー著、沖縄大学地域研究所編『世界の沖縄学: 沖縄研究50年の歩み』、芙蓉書房出版、2012年

１２．前田勇樹・古波蔵契『かたりあう沖縄近現代史: 沖縄のこれからを
引き継ぐための七つのムヌガタイ』、ボーダーインク、2025年
１３．今林直樹『沖縄の歴史・政治・社会』、大学教育出版、2016年
１４．桜澤誠『沖縄観光産業の近現代史』、人文書院、2021年
１５．『ヤンキーと地元――解体屋、風俗経営者、ヤミ業者になった沖縄
の若者たち』、筑摩書房、2024年
１６．『裸足で逃げる沖縄の夜の街の少女たち 』、太田書房、2017年
１７．Jeju 「済州フォーラム2025、60ヶ国4千人以上が参加　53セッション運営」
https://www.investkorea.org/jj-jp/bbs/i-2151/detail.do?ntt_sn=491350
（参照日：2025年６月5日）１８．沖縄県公式HP　「沖縄県の概要 」
https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/012/957/dai1syou.pdf
１９．日経BP「勝ち筋の作り方」
https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00920/00005/
（参照日：2025年６月5日）
２１．DIAMOND　online「森岡毅の新テーマパーク」
https://diamond.jp/articles/-/358410　（参照日：2025年６月5日）
２２.内閣府沖縄総合事務局運輸部観光課「令和６年度　北部地域における観光客糖による共同売店
利用実態等調査・分析を通じた伴走支援事業　一報告書一」、令和7年3月、　R6-kyoudobaiten-chousa.pdf
２３.沖縄県「第２期沖縄県スポーツ振興計画　世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖
縄」形成」令和4年3月、Microsoft Word - 沖縄県第2期スポーツ推進計画+

ご清聴、ありがとうございました。